

2020年 7月 29日

報道関係者 各位



知の先覚者 梅棹忠夫が残したアーカイブズ資料とデジタル・データベース

梅棹忠夫生誕100年記念企画展「知的生産のフロンティア」

2020年9月3日（木）～10月20日（火）開催 国立民族学博物館

新型コロナウイルスの影響により、開幕を延期しておりました、梅棹忠夫生誕100年記念企画展「知的生産のフロンティア」の会期・関連イベントが決まりましたので改めてご案内いたします。



国立民族学博物館(大阪府吹田市千里万博公園10-1)では、梅棹忠夫生誕100年記念企画展「知的生産のフロンティア」を、2020年9月3日(木)から10月20日(火)まで開催します。

みんぱく初代館長を務めた梅棹忠夫(1920-2010)は、多数の学術調査に参加した知の先覚者です。彼は、調査成果を論文などにまとめる方法を『知的生産の技術』(1969年)で述べましたが、具体的に資料を加工する過程は示しませんでした。この企画展では、梅棹のアーカイブズ資料とデジタル・データベースで彼の知的生産の舞台裏を紹介します。

梅棹忠夫(うめさお ただお) 1920-2010

1920年京都市生まれ。民族学者、比較文明学者。京都帝国大学理学部卒業、理学博士。大学では主として動物学を専攻したが、内モンゴルの学術調査を通じて民族学に転じ、アフガニスタン、東南アジア、東アフリカ、ヨーロッパなどでフィールド・ワークを精力的におこなう。1957年の「文明の生態史観」では、西欧文明と日本文明は、ほぼ同じあゆみで進化したという「平行進化説」を打ち出す。

1949年から65年まで大阪市立大学工学部助教授、1965年から69年まで京都大学人文科学研究所助教授、1969年から74年まで同教授。国立民族学博物館の創設に尽力し、1974年から93年まで初代館長、退官後は同館顧問、名誉教授となる。総合研究大学院大学名誉教授、京都大学名誉教授。1988年に朝日賞を受賞。1991年に文化功労者。1994年に文化勲章、1999年勲一等瑞宝章を受章。2010年没。

梅棹忠夫アーカイブズ <http://nmearch.minpaku.ac.jp/umesao-archives/index.html>

梅棹忠夫の残した資料は民族学研究アーカイブズとして保管・整理されています。フィールドノート、スケッチ、手紙類を収めたファイルなどおよそ15万点あります。一部はオンラインで見ることができます。

フィールドノートから内容別に転記した
ローマ字カード(写真撮影 尼川匡志)



展覧会の見どころ

- 梅棹忠夫が残したアーカイブズ資料のなかから、著書『知的生産の技術』(1969年)の直筆の原稿のほか、海外での調査記録など実物資料を展示します。
- AIも利用した先駆的なデジタル・アーカイブズを展示会場で実際に体験していただけます。
- 新たによみがえるアーカイブズ資料の読みときを誘うのは、梅棹のデッサンを生かしたキャラクターのクマ「ウルソ」です。

展示構成

- ・ イントロダクション
- ・ 内モンゴル調査(1944～1946)
- ・ 京都大学カラコラム・ヒンズークシ学術探検(Kyoto University Scientific Expedition (KUSE)、1955)
- ・ 大阪市立大学東南アジア学術調査(Osaka City University Biological Expedition to Southeast Asia (OCUBE)、第1次1957～1958、第2次1961～1962)

ビルマ独立記念祭での民族衣装
(1961年 写真撮影 梅棹忠夫)



開催概要

展 示 名	梅棹忠夫生誕100年記念企画展「知的生産のフロンティア」
会 期	2020年9月3日(木)～10月20日(火)
会 場	国立民族学博物館(大阪府吹田市千里万博公園10-1) 本館企画展示場
開 館 時 間	10:00～17:00(入館は16:30まで)
休 館 日	水曜日
観 覧 料	一般580円(490円)、大学生250円(200円)、高校生以下無料 ※()は20名以上の団体料金／リピーターは団体料金を適用 ※本館展示もご覧いただけます
主 催	国立民族学博物館
協 力	千里文化財団
学 術 協 力	国立情報学研究所 高野研究室

実行委員

小長谷有紀(国立民族学博物館 客員教授、日本学術振興会 監事)

専門分野は牧畜文化論・モンゴル研究。著書に『ウメサオタダオが語る、梅棹忠夫——アーカイブズの山を登る』(ミネルヴァ書房、2017年)、『人類学者は草原に育つ——変貌するモンゴルとともに』(臨川書店、2014年)『ウメサオタダオと出会う——文明学者・梅棹忠夫入門』(小学館、2011年)など。

飯田卓(国立民族学博物館 人類文明誌研究部 教授)

専門分野は生態人類学・視覚メディアの人類学・文化遺産の人類学。著書に『身をもって知る技法——マダガスカル漁師に学ぶ』(臨川書店、2014年)、編著に『文化遺産と生きる』(臨川書店、2017年)など。現在の研究テーマのひとつとして、学術とマスメディアの関わりについても関心を寄せている。

久保正敏(国立民族学博物館 名誉教授)

専門分野は民族情報学・コンピュータ民族学・オーストラリア研究。著書に『コンピュータ・ドリーミング——オーストラリア・アボリジニ世界への旅』(明石書店、1995年)、『マルチメディア時代の起点——イメージからみるメディア』(NHKブックス、1996年)。編著に『映像人類学——人類学の新たな実践へ』(せりか書房、2014年)など。

高野明彦(国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 教授)

専門分野は関数プログラミング、連想情報学、アーカイブ情報学。研究成果の連想検索エンジンは「新書マップ」「想・IMAGINE」「Webcat Plus」「文化遺産オンライン」「NHK放送文化アーカイブ」など数々のサービスで利用されている。共著に『311情報学』(岩波書店、2012年)、『検索の新地平』(角川、2015年)など。

丸川雄三(国立民族学博物館 人類基礎理論研究部 准教授)

専門分野は連想情報学・文化財情報発信研究。論文に「美術関係資料アーカイブズにおける情報管理発信システムの研究」(『アート・ドキュメンテーション研究』25: 3-17, 2018年)、手がけたウェブサイト「文化遺産オンライン」、「日本アニメーション映画クラシックス」など。

関連イベント

みんなくゼミナール「梅棹忠夫に学んだ知的生産の技術」

場 所 国立民族学博物館 講堂
日 時 2020年9月19日(土) 13:30～15:00 (13:00開場)
講 師 小長谷有紀(国立民族学博物館 客員教授)
 高野明彦(国立情報学研究所 教授)
 飯田卓(国立民族学博物館 教授)
定員 112名
参加方法 参加無料／要事前申込
内 容 梅棹忠夫は、調査で得た資料を整理して論文にするだけでなく、関連資料をアーカイブズとして残しています。資料の収集から公開までの研究サイクルを、新技術も用いて実現するようすをお話します。



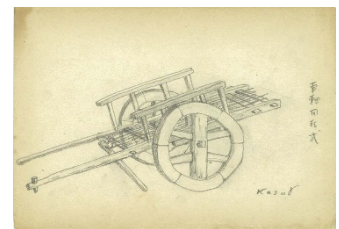
1969年、京都大学の研究室で仕事をする梅棹忠夫
(写真提供 梅棹淳子)

みんなくウィークエンド・サロン——研究者と話そう

研究者が展示場に登場し、展示や研究についてお話します。

「デジタル技術でみる『梅棹忠夫アーカイブズ』」

会 場 国立民族学博物館 本館2階 第5セミナー室
日 時 2020年9月13日(日) 14:30～15:00(14:00 開場)
講 師 丸川雄三(国立民族学博物館 准教授)
定 員 42名[先着順／申込不要]
参加方法 参加無料(ただし、展示観覧券が必要です。)
内 容 フィールドノートやスケッチ、写真など、民博では梅棹忠夫が残した膨大な資料を整理しデジタル化を進めています。コンピュータで検索、閲覧が可能となったアーカイブズ資料は何を語り、そこから何がみえてくるのでしょうか。その一端を探ります。



車軸回転式の牛車
(スケッチ「内モンゴル調査」図72より)

「現代に活かす『知的生産の技術』」

会 場 国立民族学博物館 本館2階 第5セミナー室
日 時 2020年9月27日(日) 14:30～15:00(14:00 開場)
講 師 飯田卓(国立民族学博物館 教授)
定 員 42名[先着順／申込不要]
参加方法 参加無料(ただし、展示観覧券が必要です。)
内 容 梅棹忠夫の『知的生産の技術』が刊行されて今年で51年。その間、事務機器の発達とパソコンの普及、デジタル化の進展とインターネットの導入など数々の変化がありました。なぜ、梅棹の本はいまだに読みつがれているのでしょうか。知的生産の過去と現在を紹介し、未来を見とおします。



梅棹資料室に保管されている『知的生産の技術』。版が重なるたびに1冊ずつ増えていく。

●ご来館のみなさまへ

新型コロナウイルス感染症の予防のため会期・イベント等を変更・中止する場合があります。事前にホームページでご確認ください。また、オンライン予約でのご来館にご協力ください。

関連出版物

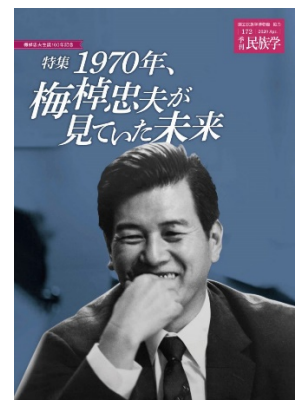
『月刊みんぱく 2020年4月号』特集「知的生産のフロンティア」

販売価格 275円(税込)
発行所 吹田:国立民族学博物館
発行年月日 2020年4月1日
大きさ、容量等 B5判・20頁
内 容 企画展と連動した特集号。梅棹の知的生産の過程とその方法論を概観し、未来のアーカイブズのあり方を考えます。



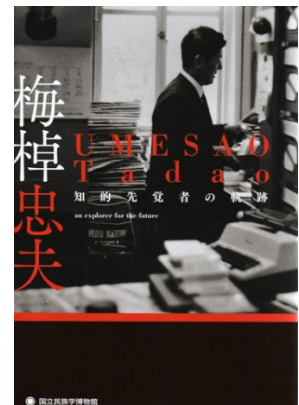
『季刊民族学172号』特集「1970年、梅棹忠夫が見ていた未来」

販売価格 2,750円(税込)
発行所 吹田:千里文化財団
発行年月日 2020年4月25日
大きさ、容量等 A4判・104頁
内 容 季刊民族学 生誕100周年を記念する特集号。



『梅棹忠夫——知的先覚者の軌跡』

著 者 国立民族学博物館 [著]、特別展「ウメサオタダオ展」実行委員会 編、小長谷有紀 責任編集
販売価格 2,640円(税込)
発行所 吹田:千里文化財団
発行年月日 2011年3月
大きさ、容量等 A4判・145頁
内 容 梅棹忠夫の90年の全生涯とその知的営みにせまる、渾身の力作。総勢41名にのぼる執筆陣がそれぞれ異なる視点から解題をこころみています。20世紀における日本の知性について考えるうえでも必携書となるでしょう。



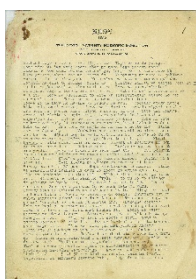
梅棹忠夫生誕100年記念企画展「知的生産のフロンティア」 広報用画像リスト



【1】チラシ画像



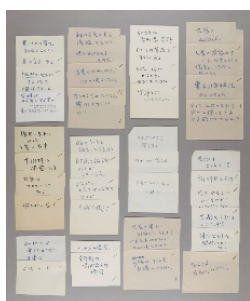
【2】モンゴルのフィールドノート（写真撮影 尼川匡志）



【3】アフガニスタンからインドへの道中で
作成されたローマ字原稿



【4】ビルマ独立記念祭での民族衣装
(1961年 写真撮影 梅棹忠夫)



【5】「知的生産の技術」のための「こざね」
(写真撮影 尼川匡志)



【6】フィールドノートから内容別に
転記したローマ字カード（写真撮影 尼川匡志）

- ・これらの広報画像はデータにて提供可能です。
- ・ご入り用の画像があれば、総務課広報係まで次頁申込用紙にてお申し込みください。ただし、大部分の画像はアーカイブズ資料そのものですので、利用目的は今回の展示の紹介にかぎり、展示閉幕後は提供した画像データをすみやかに消去していただきますようお願いいたします。
- ・資料名につきましては、展示場での表記と異なる場合がございます。

梅棹忠夫生誕100年記念企画展「知的生産のフロンティア」
広報用画像利用申込用紙

〔メールでお申し込みの場合〕 koho@minpaku.ac.jp

〔FAXでお申し込みの場合〕 FAX番号: 06-6875-0401

【ご希望の画像番号】

--

【貴社・貴機関についてお知らせください。】

貴社・貴機関名	媒体名
ご担当者名	所属部署
ご住所 〒	E-mail
電話番号	FAX番号
ご掲載・放映の予定日が決まっている場合 年 月 日	

【プレゼント用招待券】（ご希望の場合はどちらかにチェックを入れてください）

☐ 3組6枚 ☐ 5組10枚

※チケット発送先が上記所在地と異なる場合は、下記にご記入ください。

発送先 〒

【広報に関するお願い】

- 写真使用に関するお願い、注意事項
- ・クレジットには次のとおり記載してください。
- 【2】～【6】国立民族学博物館（所蔵）
- ・写真（画像）のトリミングや文字乗せはご遠慮ください。
 - ・作品写真の使用目的は、本展の紹介のみとさせていただきます。なお、本展覧会終了後の使用はできませんのでご了承ください。
 - ・展示閉幕後は提供した画像データをすみやかに消去していただきますようお願いいたします。
- 本館の基本情報等の確認のため、メールまたはFAXにて、掲載記事、番組内容の原稿等を下記連絡先までお送り願います。
- お手数ですが、掲載紙・誌または録画媒体を2部お送りください。